

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

31号

2007.10.27 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 5月19日(土)ほか… トライアルサタデー「子どもチャレンジ竹細工」/特別活動
- 6月23日(土)… トンボ池周辺整備 /定例活動
- 7月28日(土)… 講座「森の調査」 /定例活動
- 7月15日(日)、8月11日(土)… 灯火採集
- 8月25日(土)… 竹クラフト /定例活動
- 9月22日(土)… 柴刈り大会・いのちの谷整備 /定例活動
- 9月23日(日)… 「環境デーなごや2007 中央行事」 出展 /特別活動

6月定例活動

トンボ池周辺整備



雨続きの谷間の晴れの日。6月の定例活動会「トンボ池周辺整備」ということで午前中は主に草刈り。昼から

はベンチづくりをやりました。草刈りの合間にはトンボ池でヤゴを捕まえたり、今は非常に珍しくなったトノサマガエルを観察しました。今年のヤゴは少し小振りで、ギンヤンマやナツアカネのヤゴが見つかりました。

参加者は三世代にわたり12名でした。新しく設置したベンチに座りながら、すっかりきれいになったトンボ池を眺めているとゆったりとした気分になります。これでビールでも飲めたら最高なのに……。

ところで最近、新しい技を発見しました。何かというと、「あぶり」です。日本軽金属から無償で頂いた木材をトーチなどで表面をあぶるのです。この

木材は運搬用に製材したのみで、乾燥させて無いため重く、腐りも早いので、使い勝手が悪かったのですが、この技で生まれ変わるかも？表面を炭化させることによって、長持ちするものと思われるかもしれません。また、黒っぽくなってなんか味わいも出てきたように思います。

ぜひ、みなさんもトンボ池へお越し下さい。(ジームズ・S・ポンド)



灯火採集

昨年に引き続き、名古屋の棲息生物調査が7月15日(日)と8月11日(土)の両日、夕刻7時から11時までの間、相生山緑地オアシスの森内「野辺の小径」で行われました。この調査は名古屋市内で同日同時刻にカーテン灯火採集方法によって、蛾や甲虫類を採取するもので、昨年は熱田神宮、大高緑地、戸田川緑地、平和公園、相生山緑地の5地点でしたが、今年は八竜緑地を加え、計6地点で行われました。

夏とはいえ、夜の森の中で4時間もの間、虫を集めるなどという地味な調査に果たして人が集まるのかと心配していましたが、虫好きの少年やお父さん、また通りすがりのカブトムシハン

ター親子などの参加もあり結構にぎやかに催されました。



7月の調査ではドウガネブイブイ、アオドウガネなど13種の甲虫類のほかガの仲間やセミの仲間や1ミリ以下の虫たちも数多く集まり、専門家には大変興味深い内容だそうですが、私などにはさっぱり…。それでもヒメカメコテントウとかハイイロチョッキリと

カニホンサシゲマルトビムシとか難しそうで親しみのわく名前を聞いているだけで楽しくなってきました。

いつも灯火採集調査で思うのですが、いつまでも、これら虫の世界に興味を示す虫少年が居続けてくれること、そんな少年たちが身近に親しむ森が名古屋市内に数多くあり続けることを願ってやみません。今、名古屋市では長期未整備公園緑地について、都市計画の見直しのためのパブリックコメント(意見募集)を行っています。身近な緑が将来どうなっていくのか、ぜひ一度ご覧になって意見を出してほしいと思います。

なお、この調査の報告書は年度末には出来上がる予定ですのでどうぞお楽しみに。(真弓 浩二)

7月定例活動

講座「森の調査」



7月定例会は7月28日(土)に相生山緑地の植生調査を実施しました。

午前中は、樹高、枝張、幹周を計測

して樹木の成長度を計測するものです。定点観測を過去2回実施しており、今回も前回同様の計測を実施しました。

今回は会員の他、見学者の参加も得て和やかな雰囲気の中で調査を行いました。計測に先立って測定木の確認に手間取りましたが、何とか調査ができました。

調査結果の考察は別の機会に譲りますが、個人的感想としては、幹周については、成長の余裕がある場所にある木は太くなっているものの、他の木との間に余裕がない場合は、さほど顕著な成長がみられない感じました。また前回調査時に比べて消失した樹木が多かったこととカシナガの被害が多かったことが印象的です。特に、どんぐり祭りで例年ツリーハガーズさんが木登りに使う大振りなコナラが被害に

あったことがとても残念です。

午後からは、森全体で遊歩道沿いにカシナガの被害状況を調査しました。

この結果、カシナガの被害は集いの広場周辺に多く発生しており、必ずしも森全体に広がってはいないことが判りました。しかし十分な対策を講じなければ、今後もカシナガの被害は拡大していくのではないのでしょうか。

やぶ蚊に何箇所も刺されて痒い中で定例会でしたが、変化が見えにくい森のなかの環境変化を実際に観ることができて有意義な一日であったと思います。

最後になりましたが、東洋ソフランの担当者の方がこの日、助成事業の説明にわざわざ相生山に来てくださいました。この場を借りてお礼申し上げます。

(村田 英二)

「環境デーなごや2007 中央行事」 出展

9月23日(日)、「曇りから晴れ」の予報でしたが、出展準備で焼印ペンダント用の炭火を起こした途端ににわか雨。栄地区のみの局地的な雨だったようで、20分ほどで止みホッとしたものかえって蒸し暑くなりました。

人々が来場し始めましたが、今年は飲食物の店が無くなったためか、訪れる人々の層が昨年までと異なり、祖父母と孫連れが少なく、大根でっぼうに目を輝かす男の子の姿が減りました。

しかし、今年はいじめて出品した森さん特製の竹玩具に人々が注目。刻み目

をつけた竹棒を別の竹棒でこすると先端のプロペラが回転するもので何とも不思議。大人も子どもも立ち止まって「何で?」。「数学者ベルヌーイの法則を利用したもの」云々の説明書を渡すと、理解はできないものの、面白過ぎて多くの人が買っていきました。

木の股で作ったゴムパチンコも並べました。年配の男性は「懐かしい」と手に取り、女性たちは玉用の青いセンダンの実に興味を示していました。

永遠の花形は焼印ペンダント作り。誰かがコナラの木を切っていると人々

が群がり、古いも若きも我も我もとやりたがり、大舘会長は玉の汗の大奮闘。しかし実演していないとさっさと通り過ぎていきます。群集心理の面白さを実感した一日でした。(伊藤 晶子)



天白生涯学習センター主催

トライアルサタデー 子どもチャレンジ竹細工

5月19日、6月16日、23日、7月7日(いずれも土曜日午前)全4回開催。

第1回は、子どもの参加者17名と森くらぶ会員、荒池クラブ会員及び学習センター職員3名で相生山緑地の竹林で会員の指導により竹細工に使う竹切りをしました。

2回目からは相生小学校の研修室に場所を移し、竹細工にチャレンジです。6月16日は手始めに大根鉄砲、紙鉄砲などを作りました。次に23日、7月7日はレベルを上げてうぐい

す笛、水鉄砲、竹とんぼの製作です。

子どもたちの中には初めはナイフ、ノコギリの取り扱いができない子もいましたが、回数を重ねることで何とか作品を作ることができました。

4回の講座を通じて、子どもたちに怪我もなく、無事終了できよかったです。一緒に指導のお手伝いをいただきました方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。(森 勝)



8月定例活動 竹クラフト講座

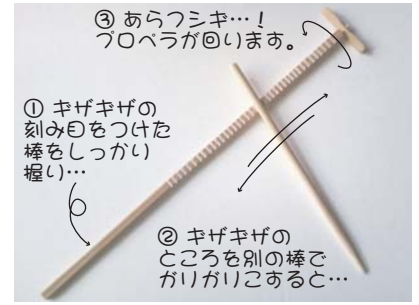


8月25日、猛暑の中クーラーのきいた山根コミセンで「竹クラフト講座」を行いました。

秋のさまざまなイベントで活用できるように今年は「ガリガリ竹コプター」をみんなで作ってみました。会員は初めての作品のためかなり苦戦しましたが、昼までに各自が2本ずつ作ることができました。

昼食後は各自が竹の箸などを作り、

2時頃に終了しました。参加者の皆さんお疲れ様でした。(森 勝)



9月定例活動 柴刈り大会・いのちの谷整備



Before
(うっそう)



After
(すっきり)



く手入れの行われていない「いのちの谷」につながる森の整備を行いました。

以前柴刈りをしたときは散策しやすく、コナラが落葉した冬場には日向ぼっこに最適の空間となっていたのに、自然の再生力はたいしたもの、今ではサカキ、ヤマハゼ、ソヨゴ、アラカシなどの実生が繁茂し寝転ぶスペースもありません。それから、今年は残念なことに、コナラの大木がカシナガの被害にあい樹齢(じゅみょう)は風前のともし火の状態。コナラばかり多くなってしまった最近の里山風景に一定の限界が来たのかと心配になります。

そうは言うものの、作業は林内に繁茂するサカキ、ヤマハゼ退治を中心とし、いのちの谷との境界にそれら柴材を集積し、人の空間と生き物の空間を分離する前回同様のパターンで取り組みました。中には直径15cmくらいのヤマハゼもあり、羽状複葉の葉を見るだけで

皮膚にかゆみを生ずる人にとってはぜひいぶん散策しやすい森となりました。

それから、コナラの萌芽更新を促すために、幹からヒコ生えが多く出て樹勢の弱っているものや、込み合って枯れたコナラを中心に5本程度除伐しました。枯れたもの以外は、1月に行う天白森のフィールドサーキットで『しいたけ菌打ち』に使うように1m程度に切り森に寝かせて置きました。

いのちの谷の整備が終わった後には山根口近くの竹林で、倒れ掛かった竹や生長の悪いものを再度除伐して、こちらも散策しやすくなりました。昼からも暑さの中での作業で、全員ぐったり。持ってきたお茶も空っぽとなりました。

家へ帰ってニュースを見てまた疲れがどっと出ました。なんと名古屋の最高気温33.1℃、平年より6.5℃も高かったそうです。どうりで汗が沢山ではずです。(大館 学)

秋分の日を翌日に控えた9月22日、快晴。まだまだ暑いこの日は、しばら

シリーズ『森の住人たち』⑱

～アサギマダラ～ その2 遠路はるばる、名古屋へようこそ!



フジバカマを訪れたアサギマダラ

10月7日午後、相生山緑地(名古屋市天白区)でアサギマダラ・マーキング調査を行っていた。飛来が途絶えたので、おしゃべりに興じていた時だった。

「アサギマダラ！」

Wさんが、突然叫ぶように言葉を

タテハチョウ科マダラチョウ亜科 開長 10cm
分布 日本全土 食草 キジョラン、カモメヅル、イケマなど

発した。彼の視線は、私と並んで立つTさんの後方に注がれている。速やかにかつ敏捷に捕虫網を操るTさん。入った! ナイス・キャッチ! ふたりの見事な連携プレーに思わず拍手! アサギマダラを慎重に扱いながら捕虫網から取り出すTさんが、驚きの声を上げる。

「ハセガワ・・・あ、日光だ」

左翅には「ハセ川」、右翅には「日光 8.24」の文字がある。つまり8月24日にハセ川さんという方が、日光でマーキングをしたアサギマダラであることが読み取れる。遠路はるばる44日の旅をしてきたアサギマダラに、思わず労いの言葉をかけたくなる。

「おつかれさま、名古屋へようこそ！」

奇しくも同日、平和公園(名古屋市千種区)では「山ZAO 8.25 MW」の標識のあるチョウが再捕獲された。後日、山形県蔵王で実施された自然観察会で、MWさんが8月25日にマーキングした個体であることが判明。

アサギマダラは、日本全国どこにでもいるチョウである。とはいっても、好みの環境がある。吸蜜植物が植生していること、翅を休める森の空間があること等々、自然に恵まれていることが条件のようだ。彼らが選択する場所は、私たち人間が憩いたいと願う場に、どこか似ている。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)

野焼きの禁止 について

【落ち葉焚きができる?】とか【家庭用の焼却炉は使える?】などと『野焼きの禁止』について議論になり、一度調べてお知らせすることになったので報告します。

そもそも

悪質な産業廃棄物処理業者や無許可業者による廃棄物の焼却についてダイオキシンの健康被害などが社会問題化し、これまでの行政処分では適切な取り締まりが困難であったため、罰則対象（3年以下の懲役若しくは300万円以下の罰金等）とすることにより取り締まりの実効をあげることを目的としています。そこで『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』が改正され（平成13年4月1日施行）、廃棄物の焼却を原則禁止となりました（法6条の2）。

これにともない、一定の構造基準を

満たしていない焼却炉（家庭用焼却炉のほとんど）については使用が禁止されました。焼却炉で何が燃やされているか確かめようがないため“原則禁止”という厳しいものになった訳です。

名古屋市でも『健康と安全を確保する環境の保全に関する条例』を改正し、「廃棄物等の焼却の制限」（条例第83条）を設け、罰則規定はないものの「行為の停止等の勧告」の規定を設けています。

例外は何か?

「公益上、社会慣習上やむを得ない廃棄物の焼却または周辺地域の生活環境に与える影響が軽微である廃棄物の焼却として政令（法律施行令第14条）で定めるもの」として、以下のものが挙げられています。

① 国や地方公共団体がその施設の管

- ② 災害の予防や復旧等のために必要な廃棄物の焼却
- ③ 風俗慣習上や宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却（例：どんと焼きなどによる門松、しめ縄等の焼却）
- ④ 農林漁業を営むためにやむを得ないもの（例：稲わらや枝等の焼却）
- ⑤ たき火など日常生活を営む上で通常行われるものであって軽微なもの（例：たき火、キャンプファイヤーなど）

以上が可能なものとして制限列挙されていますが、当然ながら、ダイオキシンが発生するビニール類の焼却は禁止である上、煙や悪臭など生活環境への配慮は欠かせません。

（小池 敦夫）

Schedule

【定例活動予定】

集いの広場 10:00集合

11月24日(土) 竹林の整備・竹炭用材準備

12月22日(土) 正月準備、梅の剪定、施肥

2008年

1月26日(土) ツツジの園再生・しいたけ駒菌打ち

2月23日(土) アカマツ林再生プロジェクト

3月22日(土) 第10回萌木祭り

11月17日(土) 特別活動【菓箱の清掃】

集いの広場 9:00集合

●●●●● 会員募集中! ●●●●●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円（保険料含む）です。主に連絡、郵送費です。

○振り込み先（郵便局） オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

Information

【参加申込み・お問合せなど】

事務局

伊藤百寿人 052-895-8523

中島己治男 052-803-9534

【Eメール】

Mail address :

aioyama-moriclub@mail.goo.ne.jp

★参加申し込み・お問い合わせなどをメールでも受け付けています。

★会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。

【ホームページ】

URL address :

http://f44.aaa.livedoor.jp

/~oasis/index.html

★ニュースレターのカラー版（PDFファイル）がダウンロードできます。

★定例活動・特別活動の報告や予告などを随時更新しています。

ホームページ管理・作成スタッフを募集しています!

お手伝いいただける方、興味のある方、是非ご一報を!!